

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-19529

(P2017-19529A)

(43) 公開日 平成29年1月26日(2017.1.26)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 6 5 D 25/28 (2006.01)	B 6 5 D 25/28 1 0 5 D	3 E 0 6 2
B 6 5 D 25/30 (2006.01)	B 6 5 D 25/30	

審査請求 有 請求項の数 7 O L (全 19 頁)

(21) 出願番号	特願2015-138864 (P2015-138864)	(71) 出願人	591261602
(22) 出願日	平成27年7月10日 (2015. 7. 10)		サーモス株式会社
(11) 特許番号	特許第6041938号 (P6041938)		新潟県燕市吉田下中野1 4 3 5番地
(45) 特許公報発行日	平成28年12月14日 (2016. 12. 14)	(74) 代理人	100064908
			弁理士 志賀 正武
		(74) 代理人	100094400
			弁理士 鈴木 三義
		(74) 代理人	100152146
			弁理士 伏見 俊介
		(72) 発明者	伊藤 圭
			新潟県燕市吉田下中野1 4 3 5番地 サーモス株式会社内
		Fターム (参考)	3E062 AA09 AB02 AC03 DA01 DA09
			HA06 HB02 HB07 HC12 HC14
			HD02 HD17

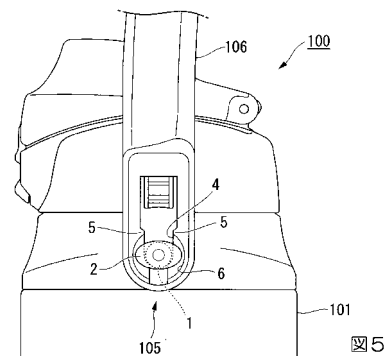
(54) 【発明の名称】 着脱式把手のヒンジ構造及び携帯型飲料容器

(57) 【要約】

【課題】更なる利便性の向上を可能とした着脱式把手のヒンジ構造を提供する。

【解決手段】容器本体 1 0 1 の側面にヒンジ部 1 0 5 を介して回転自在に支持される把手 1 0 6 を容器本体 1 0 1 に対して着脱自在に取り付ける着脱式把手のヒンジ構造であって、ヒンジ部 1 0 5 は、容器本体 1 0 1 の側面から突出された支軸 1 と、支軸 1 の先端から拡径方向に突出された抜け止め部 2 と、把手 1 0 6 に設けられて、支軸 1 及び抜け止め部 2 をスライド自在に案内するガイド孔 4 と、ガイド孔 4 のスライド方向の一方側に位置して抜け止め部 2 の回転を規制する回転規制部 5 と、ガイド孔 4 のスライド方向の他方側に位置して抜け止め部 2 を回転自在に案内する回転案内部 6 とを有し、ガイド孔 4 の内側に進入した抜け止め部 2 及び支軸 1 をガイド孔 4 の他方側に位置させることによって、把手 1 0 6 を回転させたときに抜け止め部 2 がガイド孔 4 から抜け止めされた状態となる。

【選択図】 図 5



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

容器本体の側面にヒンジ部を介して回動自在に支持される把手を前記容器本体に対して着脱自在に取り付ける着脱式把手のヒンジ構造であって、

前記ヒンジ部は、前記容器本体の側面から突出された支軸と、

前記支軸の先端から拡径方向に突出された抜け止め部と、

前記把手に設けられて、前記支軸及び前記抜け止め部をスライド自在に案内するガイド孔と、

前記ガイド孔のスライド方向の一方側に位置して前記抜け止め部の回動を規制する回動規制部と、

前記ガイド孔のスライド方向の他方側に位置して前記抜け止め部を回動自在に案内する回動案内部とを有し、

前記ガイド孔の内側に進入した前記抜け止め部及び前記支軸を前記ガイド孔の他方側に位置させることによって、前記把手を回動させたときに前記抜け止め部が前記ガイド孔から抜け止めされた状態となることを特徴とする着脱式把手のヒンジ構造。

【請求項 2】

前記抜け止め部は、平面視で楕円形状を有し、

前記回動案内部は、前記抜け止め部の回動範囲に合わせて平面視で円形状に切り欠かれた凹部であり、

前記回動規制部は、前記凹部との境界において前記抜け止め部と当接される一对の当接部であり、

前記ガイド孔の一方側から前記抜け止め部及び前記支軸を前記ガイド孔の内側に進入させた状態から前記把手を回動させたときに、前記抜け止め部が前記一对の当接部と当接しながら前記凹部の内側へと進入すると共に、前記支軸が前記ガイド孔の一方側から他方側へとスライドすることによって、前記抜け止め部が前記ガイド孔から抜け止めされた状態となることを特徴とする請求項 1 に記載の着脱式把手のヒンジ構造。

【請求項 3】

前記ヒンジ部は、前記容器本体の側面から突出されたガイド凸部と、

前記把手の前記ガイド凸部と対向する面に前記ガイド凸部を前記把手の回動方向に所定の角度範囲で案内するガイド凹部と、

前記ガイド凹部の前記回動方向の一端側と他端側との少なくとも一方側において、前記ガイド凸部と当接される規制凸部とを有し、

前記ガイド凸部が前記規制凸部に当接されることによって、前記把手の回動が規制されると共に、前記ガイド凸部が前記規制凸部を乗り越えることによって、前記角度範囲を超えて前記把手が回動されることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の着脱式把手のヒンジ構造。

【請求項 4】

前記把手は、前記ガイド孔の前記抜け止め部及び前記支軸が進入する側とは反対側に着脱自在に取り付けられるカバー部材を有し、

前記カバー部材は、前記支軸の先端に設けられた軸穴に係合される軸ピンを有して、前記ガイド孔に沿った方向にスライド自在に取り付けられていることを特徴とする請求項 1 ~ 3 の何れか一項に記載の着脱式把手のヒンジ構造。

【請求項 5】

容器本体と、

前記容器本体の側面にヒンジ部を介して回動自在に支持される把手とを備え、

請求項 1 ~ 4 の何れか一項に記載の着脱式把手のヒンジ構造を有して、前記容器本体に対して前記把手が着脱自在に取り付けられていることを特徴とする携帯型飲料容器。

【請求項 6】

前記把手は、前記容器本体の相対する側面に前記ヒンジ部を介して上下方向に回動自在に支持された一对のアーム部と、前記一对のアーム部の間を連結するアーチ部とを有する

10

20

30

40

50

ハンドルであることを特徴とする請求項 5 に記載の携帯型飲料容器。

【請求項 7】

前記把手は、前記容器本体の相対する側面において前記ヒンジ部を介して上下方向に回動自在に支持された可撓性のストラップであることを特徴とする請求項 5 に記載の携帯型飲料容器。

【請求項 8】

前記容器本体の上部開口部を閉塞するキャップユニットを備え、

前記キャップユニットには、飲み口が開閉自在に設けられていることを特徴とする請求項 5 ～ 7 の何れか一項に記載の携帯型飲料容器。

【発明の詳細な説明】

10

【技術分野】

【0001】

本発明は、着脱式把手のヒンジ構造及び携帯型飲料容器に関する。

【背景技術】

【0002】

従来より、比較的サイズ（容量）の大きい携帯型飲料容器では、持ち運びを容易とするため、例えばハンドルやストラップなどの把手を容器本体の側面にヒンジ部を介して回動自在に取り付けることが行われている（例えば、特許文献 1，2 を参照。）。

【先行技術文献】

【特許文献】

20

【0003】

【特許文献 1】実開平 3 - 7721 号公報

【特許文献 2】特開 2007 - 217041 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、携帯型飲料容器では、上述した容器本体の側面にヒンジ部を介して回動自在に支持される把手を容器本体に対して着脱自在に取り付ける構造（以下、着脱式把手のヒンジ構造という。）とすることで、更なる利便性の向上を図ることが可能である。

【0005】

30

例えば、携帯型飲料容器に着脱式把手のヒンジ構造を採用した場合、容器本体から把手を取り外して洗浄を行ったり、把手を交換したりすることができるため、非常に便利である。

【0006】

しかしながら、従来の携帯型飲料容器では、容器本体から把手が着脱しづらい構造であったり、ヒンジ部等が洗浄しづらい構造であったりするため、使い勝手の面で不便を感じることがあった。

【0007】

本発明は、このような従来の事情に鑑みて提案されたものであり、更なる利便性の向上を可能とした着脱式把手のヒンジ構造、並びにそのような着脱式把手のヒンジ構造を有する携帯型飲料容器を提供することを目的とする。

40

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記目的を達成するために、本発明は以下の手段を提供する。

〔1〕 容器本体の側面にヒンジ部を介して回動自在に支持される把手を前記容器本体に対して着脱自在に取り付ける着脱式把手のヒンジ構造であって、

前記ヒンジ部は、前記容器本体の側面から突出された支軸と、

前記支軸の先端から拡径方向に突出された抜け止め部と、

前記把手に設けられて、前記支軸及び前記抜け止め部をスライド自在に案内するガイド孔と、

50

前記ガイド孔のスライド方向の一方側に位置して前記抜け止め部の回動を規制する回動規制部と、

前記ガイド孔のスライド方向の他方側に位置して前記抜け止め部を回動自在に案内する回動案内部とを有し、

前記ガイド孔の内側に進入した前記抜け止め部及び前記支軸を前記ガイド孔の他方側に位置させることによって、前記把手を回動させたときに前記抜け止め部が前記ガイド孔から抜け止めされた状態となることを特徴とする着脱式把手のヒンジ構造。

〔 2 〕 前記抜け止め部は、平面視で楕円形状を有し、

前記回動案内部は、前記抜け止め部の回動範囲に合わせて平面視で円形状に切り欠かれた凹部であり、

前記回動規制部は、前記凹部との境界において前記抜け止め部と当接される一对の当接部であり、

前記ガイド孔の一方側から前記抜け止め部及び前記支軸を前記ガイド孔の内側に進入させた状態から前記把手を回動させたときに、前記抜け止め部が前記一对の当接部と当接しながら前記凹部の内側へと進入すると共に、前記支軸が前記ガイド孔の一方側から他方側へとスライドすることによって、前記抜け止め部が前記ガイド孔から抜け止めされた状態となることを特徴とする前記〔 1 〕に記載の着脱式把手のヒンジ構造。

〔 3 〕 前記ヒンジ部は、前記容器本体の側面から突出されたガイド凸部と、

前記把手の前記ガイド凸部と対向する面に前記ガイド凸部を前記把手の回動方向に所定の角度範囲で案内するガイド凹部と、

前記ガイド凹部の前記回動方向の一端側と他端側との少なくとも一方側において、前記ガイド凸部と当接される規制凸部とを有し、

前記ガイド凸部が前記規制凸部に当接されることによって、前記把手の回動が規制されると共に、前記ガイド凸部が前記規制凸部を乗り越えることによって、前記角度範囲を超えて前記把手が回動されることを特徴とする前記〔 1 〕又は〔 2 〕に記載の着脱式把手のヒンジ構造。

〔 4 〕 前記把手は、前記ガイド孔の前記抜け止め部及び前記支軸が進入する側とは反対側に着脱自在に取り付けられるカバー部材を有し、

前記カバー部材は、前記支軸の先端に設けられた軸穴に係合される軸ピンを有して、前記ガイド孔に沿った方向にスライド自在に取り付けられていることを特徴とする前記〔 1 〕～〔 3 〕の何れか一項に記載の着脱式把手のヒンジ構造。

〔 5 〕 容器本体と、

前記容器本体の側面にヒンジ部を介して回動自在に支持される把手とを備え、

前記〔 1 〕～〔 4 〕の何れか一項に記載の着脱式把手のヒンジ構造を有して、前記容器本体に対して前記把手が着脱自在に取り付けられていることを特徴とする携帯型飲料容器。

〔 6 〕 前記把手は、前記容器本体の相対する側面に前記ヒンジ部を介して上下方向に回動自在に支持された一对のアーム部と、前記一对のアーム部の間を連結するアーチ部とを有するハンドルであることを特徴とする前記〔 5 〕に記載の携帯型飲料容器。

〔 7 〕 前記把手は、前記容器本体の相対する側面において前記ヒンジ部を介して上下方向に回動自在に支持された可撓性のストラップであることを特徴とする前記〔 5 〕に記載の携帯型飲料容器。

〔 8 〕 前記容器本体の上部開口部を閉塞するキャップユニットを備え、

前記キャップユニットには、飲み口が開閉自在に設けられていることを特徴とする前記〔 5 〕～〔 7 〕の何れか一項に記載の携帯型飲料容器。

【発明の効果】

【 0 0 0 9 】

以上のように、本発明によれば、更なる利便性の向上を可能とした着脱式把手のヒンジ構造、並びにそのような着脱式把手のヒンジ構造を有する携帯型飲料容器を提供することが可能である。

10

20

30

40

50

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】本発明の一実施形態に係る携帯型飲料容器の外観を示す斜視図である。

【図2】図1に示す携帯型飲料容器が備えるヒンジ部の容器本体側の構成を示し、(a)はその側面図、(b)はその下方側から見た平面図、(c)はその断面図である。

【図3】図1に示す携帯型飲料容器が備えるヒンジ部のハンドル側の構成を示し、(a)はその外側から見た側面図、(b)はその内側から見た側面図、(c)はその断面図である。

【図4】図1に示す携帯型飲料容器が備えるハンドルの回動動作を説明するための図であり、ハンドルが着脱位置にあるときのヒンジ部を拡大して示す側面図である。

10

【図5】図1に示す携帯型飲料容器が備えるハンドルの回動動作を説明するための図であり、ハンドルが抜け止め位置にあるときのヒンジ部を拡大して示す側面図である。

【図6】図1に示す携帯型飲料容器が備えるハンドルの回動動作を説明するための図であり、ハンドルを着脱位置から抜け止め位置へと回動させたときのヒンジ部を拡大して示す側面図である。

【図7】図1に示す携帯型飲料容器が備えるハンドルの回動動作を説明するための図であり、ハンドルの回動が回動方向の一方側で規制された状態を示す側面図である。

【図8】図7中に示すヒンジ部を拡大して示す側面図である。

【図9】図1に示す携帯型飲料容器が備えるハンドルの回動動作を説明するための図であり、ハンドルの回動が回動方向の他方側で規制された状態を示す側面図である。

20

【図10】図9中に示すヒンジ部を拡大して示す側面図である。

【図11】図1に示す携帯型飲料容器が備えるハンドルの回動動作を説明するための図であり、ハンドルが回動方向の一端側に位置する状態を示す側面図である。

【図12】図1に示す携帯型飲料容器が備えるハンドルの回動動作を説明するための図であり、ハンドルが回動方向の他端側に位置する状態を示す側面図である。

【図13】カバー部材の構成を示し、(a)はその裏面側から見た平面図、(b)はその表面側から見た平面図、(c)はその断面図、(d)はその先端側から見た側面図である。

【図14】カバー部材がスライド方向の一方側に位置する状態を示す断面図である。

【図15】カバー部材がスライド方向の他方側に位置する状態を示す断面図である。

30

【図16】カバー部材のスライド動作を説明するための図であり、(a)はハンドルが着脱位置にあるときの側面図、(b)はハンドルが中間位置にあるときの側面図、(c)はハンドルが抜け止め位置にあるときの側面図である。

【発明を実施するための形態】

【0011】

以下、本発明の実施形態について、図面を参照して詳細に説明する。

(携帯型飲料容器)

本発明の一実施形態として、例えば図1に示す携帯型飲料容器1について説明する。なお、図1は、携帯型飲料容器1の外観を示す斜視図である。また、図1中の囲み部分には、線分A-A'による携帯型飲料容器100の要部断面図を示す。

40

【0012】

本実施形態の携帯型飲料容器100は、比較的サイズ(容量)が大きい保冷機能を有したタイプであり、その内容量は約2Lである。なお、比較的サイズ(容量)が大きい携帯型飲料容器としては、例えば1~3L程度のものを挙げることができる。

【0013】

携帯型飲料容器100は、図1に示すように、容器本体101と、キャップユニット102とを備えている。容器本体101は、真空断熱構造を有している。

【0014】

具体的に、この容器本体101は、例えばステンレス等からなる有底筒状の外容器101a及び内容器101bを有し、外容器101aの内側に内容器101bを収容した状態

50

で互いの口元部を接合した二重構造の容器により構成されている。また、外容器 101a と内容器 101b との間には、真空断熱層 101c が設けられている。真空断熱層 101c は、例えば、高真空に減圧（真空引き）されたチャンバー内で、外容器 101a の底面中央部に設けられた脱気孔を塞ぐことによって形成することができる。なお、容器本体 101 の外周面には、塗装や印刷等が施されていてもよい。

【0015】

携帯型飲料容器 100 は、このような真空断熱構造を有する容器本体 101 によって、容器本体 101 に収容された飲料（内容物）を保冷することが可能となっている。なお、携帯型飲料容器の中には、真空断熱構造を有する容器本体によって、保冷機能の他にも、保温機能を持たせたものがある。

10

【0016】

容器本体 101 は、円筒状の胴部 101d を有し、この胴部 101d の軸方向の一端（下端）側に底部材 103 と、他端（上端）側に肩部材 104 とが取り付けられた補強構造を有している。底部材 103 は、容器本体 101 の底部を被覆した状態で設けられている。肩部材 104 は、容器本体 101 の胴部 101d の上端から上方に向かって漸次縮径された肩部と、肩部の上端から筒状に起立した口頸部とを被覆した状態で設けられている。

【0017】

容器本体 101 には、ヒンジ部 105 を介してハンドル（把手）106 が取り付けられている。ハンドル 106 は、肩部材 104 の相対する側面にヒンジ部 105 を介して上下方向に回動自在に支持された一対のアーム部 106a と、一対のアーム部 106a の間を連結するアーチ部 106b とを有している。また、アーチ部 106b には、滑り止めとなるグリップ部 106c が設けられている。

20

【0018】

なお、上述した容器本体 101 に取り付けられる底部材 103、肩部材 104 及びハンドル 106 には、耐熱性を有し、高強度且つ軽量な合成樹脂材料として、例えばポリプロピレン（PP）などが用いられている。また、グリップ部 106c には、例えばエラストマーなどが用いられている。

【0019】

キャップユニット 102 は、容器本体 101 の上部開口部 101e を閉塞するものであり、容器本体 101 の口頸部（肩部材 104）に螺合により取り付けられている。また、キャップユニット 102 の内側には、止水パッキン（図示せず。）が着脱自在に取り付けられている。止水パッキンは、容器本体 101 とキャップユニット 102 との間を密閉するリング状のシール部材である。なお、止水パッキンには、例えばシリコンゴム等の耐熱性を有するゴムやエラストマーなどが用いられている。

30

【0020】

キャップユニット 102 の上部には、略円筒状の飲み口（図示せず。）を開閉する蓋 107 がヒンジ部を介して回動自在に取り付けられている。蓋 107 は、ヒンジ部に設けられたバネ部材によって開方向に付勢されている。キャップユニット 102 には、蓋 107 が飲み口を閉塞する位置にて蓋 107 を固定する蓋ロック機構 108 が設けられている。

【0021】

蓋ロック機構 108 では、押ボタン 108a を押圧操作することによって、蓋 107 のロック状態を解除し、バネ部材の付勢により蓋 107 を開方向に回動させることが可能となっている。また、蓋ロック機構 108 には、押ボタン 108a の押圧操作を規制する位置と、この規制を解除する位置との間でスライドするストッパー 108b が設けられている。これにより、蓋ロック機構 108 では、押ボタン 108a の不要な操作により蓋 107 が開くことを防ぐことが可能となっている。

40

【0022】

蓋 107 の内側には、蓋パッキン（図示せず。）が着脱自在に取り付けられている。蓋パッキンは、飲み口と蓋 107 との間を密閉する栓状のシール部材である。なお、蓋パッキンには、止水パッキンと同じ材質のものが用いられている。

50

【 0 0 2 3 】

なお、キャップユニット 1 0 2 としては、上述した飲み口が設けられた形態に限らず、中栓及びコップが設けられた形態であってもよい。また、キャップユニット 1 0 2 には、上述した容器本体 1 0 1 に取り付けられる底部材 1 0 3、肩部材 1 0 4 及びハンドル 1 0 6 と同様の合成樹脂材料が用いられている。

【 0 0 2 4 】

本実施形態の携帯型飲料容器 1 0 0 は、上述した容器本体 1 0 1 の側面にヒンジ部 1 0 5 を介して回動自在に支持されるハンドル（把手） 1 0 6 を容器本体 1 0 1 に対して着脱自在に取り付ける着脱式把手のヒンジ構造を有している。

【 0 0 2 5 】

（着脱式把手のヒンジ構造）

以下、本実施形態の着脱式把手のヒンジ構造について、図 2 ～ 図 1 6 を参照しながら具体的に説明する。

【 0 0 2 6 】

なお、図 2 は、携帯型飲料容器 1 0 0 が備えるヒンジ部 1 0 5 の容器本体 1 0 1 側の構成を示し、（ a ）はその側面図、（ b ）はその平面図、（ c ）はその断面図である。図 3 は、携帯型飲料容器 1 0 0 が備えるヒンジ部 1 0 5 のハンドル 1 0 6 側の構成を示し、（ a ）はその外側から見た側面図、（ b ）はその内側から見た側面図、（ c ）はその断面図である。

【 0 0 2 7 】

また、図 4 ～ 図 6 は、携帯型飲料容器 1 0 0 が備えるハンドル 1 0 6 の回動動作を説明するための図であり、図 4 は、ハンドル 1 0 6 が着脱位置にあるときのヒンジ部 1 0 5 を拡大して示す側面図である。図 5 は、ハンドル 1 0 6 が抜け止め位置にあるときのヒンジ部 1 0 5 を拡大して示す側面図である。図 6 は、ハンドル 1 0 6 を着脱位置から抜け止め位置へと回動させたときのヒンジ部 1 0 5 を拡大して示す側面図である。

【 0 0 2 8 】

また、図 7 ～ 図 1 2 は、携帯型飲料容器 1 0 0 が備えるハンドル 1 0 6 の回動動作を説明するための図であり、図 7 は、ハンドル 1 0 6 の回動が回動方向の一方側で規制された状態を示す側面図である。図 8 は、図 7 中に示すヒンジ部 1 0 5 を拡大して示す側面図である。図 9 は、ハンドル 1 0 6 の回動が回動方向の他方側で規制された状態を示す側面図である。図 1 0 は、図 9 中に示すヒンジ部 1 0 5 を拡大して示す側面図である。図 1 1 は、ハンドル 1 0 6 が回動方向の一端側に位置する状態を示す側面図である。図 1 2 は、ハンドル 1 0 6 が回動方向の他端側に位置する状態を示す側面図である。

【 0 0 2 9 】

図 1 3 は、カバー部材 1 0 の構成を示し、（ a ）はその裏面側から見た平面図、（ b ）はその表面側から見た平面図、（ c ）はその断面図、（ d ）はその先端側から見た側面図である。図 1 4 は、カバー部材 1 0 がスライド方向の一方側に位置する状態を示す断面図である。図 1 5 は、カバー部材 1 0 がスライド方向の他方側に位置する状態を示す断面図である。図 1 6 は、カバー部材 1 0 のスライド動作を説明するための図であり、（ a ）はハンドル 1 0 6 が着脱位置にあるときの側面図、（ b ）はハンドル 1 0 6 が中間位置にあるときの側面図、（ c ）はハンドル 1 0 6 が抜け止め位置にあるときの側面図である。

【 0 0 3 0 】

本実施形態の着脱式把手のヒンジ構造は、図 2 （ a ）～（ c ）に示すヒンジ部 1 0 5 の容器本体 1 0 1 側において、容器本体 1 0 1 （肩部材 1 0 4 ）の側面から突出された支軸 1 と、支軸 1 の先端から拡径方向に突出された抜け止め部 2 とを有している。

【 0 0 3 1 】

支軸 1 は、肩部材 1 0 4 の相対する側面から円柱状に突出して設けられている。支軸 1 の先端の中央部には、平面視で円形状の軸穴 3 が設けられている。

【 0 0 3 2 】

抜け止め部 2 は、平面視で楕円形状を有して、支軸 1 の先端から拡径方向に突出して設

10

20

30

40

50

けられている。また、抜け止め部 2 の中心は、支軸 1 の中心と一致している。抜け止め部 2 の長径（長軸方向の長さ）は、支軸 1 の外径よりも大きくなっている。一方、抜け止め部 2 の短径（短軸方向の長さ）は、支軸 1 の外径とほぼ一致している。

【 0 0 3 3 】

本実施形態の着脱式把手のヒンジ構造は、図 3（a）～（c）に示すヒンジ部 105 のハンドル 106 側において、支軸 1 及び抜け止め部 2 をスライド自在に案内するガイド孔 4 と、ガイド孔 4 のスライド方向の一方側に位置して抜け止め部 2 の回動を規制する回動規制部 5 と、ガイド孔 4 のスライド方向の他方側に位置して抜け止め部 2 を回動自在に案内する回動案内部 6 とを有している。

【 0 0 3 4 】

ガイド孔 4 は、ハンドル 106（一对のアーム部 106a）のヒンジ部 105 を構成する位置において、このハンドル 106 を厚み方向に貫通した長孔である。ガイド孔 4 は、ハンドル 106 の長手方向（長さ方向）に沿って直線状に設けられている。また、ガイド孔 4 の幅は、支軸 1 の外径及び抜け止め部 2 の短径よりも大きく、且つ、抜け止め部 2 の長径よりも小さくなっている。これにより、ガイド孔 4 の内側に進入した抜け止め部 2 及び支軸 1 は、このガイド孔 4 の長手方向に沿ってスライド自在に案内される。

【 0 0 3 5 】

回動案内部 6 は、ハンドル 106（一对のアーム部 106a）のヒンジ部 105 を構成する位置において、ガイド孔 4 の抜け止め部 2 及び支軸 1 が進入する側（一对のアーム部 106a の内面）とは反対側（一对のアーム部 106a の外面）に設けられた凹部である（以下、凹部 6 と示す場合がある。）。具体的に、この回動案内部 6 は、抜け止め部 2 の回動範囲に合わせて、平面視で円形状に切り欠かれた凹部 6 を形成している。また、凹部 6 の内径は、抜け止め部 2 の長径よりも僅かに大きくなっている。

【 0 0 3 6 】

回動規制部 5 は、凹部 6 との境界において抜け止め部 2 と当接される一对の当接部である（以下、当接部 5 と示す場合がある。）。一对の当接部 5 の間隔は、ガイド孔 4 の幅とほぼ一致している。

【 0 0 3 7 】

本実施形態の着脱式把手のヒンジ構造では、図 4 に示すように、ハンドル 106 が水平方向の一方側（図 4 中の左側）に位置するとき（以下、この位置のことを着脱位置という。）、ハンドル 106 の一对のアーム部 106a の間を広げながら、ガイド孔 4 の内側に抜け止め部 2 及び支軸 1 を進入させたり、ガイド孔 4 の内側から抜け止め部 2 及び支軸 1 を抜き出したりすることができる。

【 0 0 3 8 】

一方、本実施形態の着脱式把手のヒンジ構造では、図 5 に示すように、ガイド孔 4 の内側に進入した抜け止め部 2 及び支軸 1 がガイド孔 4 の他方側に 90° 回動するするとき（以下、この位置のことを抜け止め位置という。）、ハンドル 106 を回動させたときに抜け止め部 2 が凹部 6 内でスムーズに回転しながら、ガイド孔 4 から抜け止めされた状態となる。

【 0 0 3 9 】

また、本実施形態の着脱式把手のヒンジ構造では、図 4 に示す着脱位置から、図 6 に示すように、ハンドル 106 を上方に向けて回動させる。このとき、支軸 1 がガイド孔 4 の抜け止め位置よりも手前に位置していても、支軸 1 の中心が一对の当接部 5 の先端を結ぶ線よりも抜け止め位置側に位置することで、当接部 5 に抜け止め部 2 が当接しながら、この抜け止め部 2 に凹部 6 の内側へと進入しようとする力が発生し、支軸 1 がガイド孔 4 の抜け止め位置へと導かれる。

【 0 0 4 0 】

これにより、図 6 に示す状態から更に、ハンドル 106 を上方に向けて回動させることによって、図 5 に示すように、抜け止め部 2 が凹部 6 の内側へと進入すると共に、支軸 1 がガイド孔 4 の一方側から他方側へとスライドする。これにより、抜け止め部 2 がガイド

10

20

30

40

50

孔 4 から抜け止めされた状態となる。

【 0 0 4 1 】

一方、本実施形態の着脱式把手のヒンジ構造では、上述したハンドル 1 0 6 を着脱位置から抜け止め位置まで回動させる動作とは逆の回動動作によって、ハンドル 1 0 6 を再び抜け止め位置から着脱位置へと戻すことが可能である。

【 0 0 4 2 】

本実施形態の着脱式把手のヒンジ構造は、図 2 (a) ~ (c) に示すヒンジ部 1 0 5 の容器本体 1 0 1 側において、容器本体 1 0 1 (肩部材 1 0 4) の側面から突出されたガイド凸部 7 を有している。ガイド凸部 7 は、支軸 1 の下方に位置して、支軸 1 よりも小さい外径且つ支軸 1 よりも低い高さで円柱状に突出して設けられている。

10

【 0 0 4 3 】

本実施形態の着脱式把手のヒンジ構造は、図 3 (a) ~ (c) に示すヒンジ部 1 0 5 のハンドル 1 0 6 側において、抜け止め位置にあるとき、ガイド凸部 7 をハンドル 1 0 6 の回動方向に所定の角度範囲で案内するガイド凹部 8 と、ガイド凸部 7 と当接される規制凸部 9 とを有している。

【 0 0 4 4 】

ガイド凹部 8 は、ガイド凸部 7 の回動範囲に合わせて、ガイド凸部 7 と対向する面 (一対のアーム部 1 0 6 a の内面) を平面視で円形状に切り欠くように設けられている。

【 0 0 4 5 】

規制凸部 9 は、ガイド凹部 8 の回動方向の一端側と他端側とに位置して、ガイド凹部 8 の底面からガイド凹部 8 の深さよりも小さい高さで突出して設けられている。また、規制凸部 9 は、ガイド凹部 8 のガイド孔 4 を挟んだ両側に位置している。

20

【 0 0 4 6 】

本実施形態の着脱式把手のヒンジ構造では、図 8 に示すように、ガイド凸部 7 が一方の規制凸部 9 に当接されることによって、ハンドル 1 0 6 の回動が規制される。これにより、携帯型飲料容器 1 0 0 では、図 7 に示すように、ハンドル 1 0 6 が回動方向の一方側 (図 7 中の左回り) へと回動したときに、このハンドル 1 0 6 が容器本体 1 0 1 に接触する手前で回動を停止させることができる。

【 0 0 4 7 】

同様に、本実施形態の着脱式把手のヒンジ構造では、図 1 0 に示すように、ガイド凸部 7 が他方の規制凸部 9 に当接されることによって、ハンドル 1 0 6 の回動が規制される。これにより、携帯型飲料容器 1 0 0 では、図 9 に示すように、ハンドル 1 0 6 が回動方向の他方側 (図 9 中の右回り) へと回動したときに、このハンドル 1 0 6 が容器本体 1 0 1 に接触する手間で回動を停止させることができる。

30

【 0 0 4 8 】

したがって、本実施形態の携帯型飲料容器 1 0 0 では、容器本体 1 0 1 を縦置きしたときに、重力によってハンドル 1 0 6 が下方に向かって回動したときでも、容器本体 1 0 1 に接触する手前でハンドル 1 0 6 の回動が停止されるため、容器本体 1 0 1 にハンドル 1 0 6 が衝突することを防ぐことができる。

【 0 0 4 9 】

さらに、本実施形態の着脱式把手のヒンジ構造では、図 8 に示す状態から、ガイド凸部 7 が一方の規制凸部 9 を乗り越える (このときクリック感を付与することができる。) ことによって、一方の規制凸部 9 で規制された角度範囲を超えてハンドル 1 0 6 を回動させることができる。これにより、携帯型飲料容器 1 0 0 では、図 1 1 に示すように、ハンドル 1 0 6 を回動方向の一方側 (図 1 1 中の左回り) に回動させながら、このハンドル 1 0 6 を容器本体 1 0 1 に接触する位置まで回動させることが可能である。

40

【 0 0 5 0 】

同様に、本実施形態の着脱式把手のヒンジ構造では、図 1 0 に示す状態から、ガイド凸部 7 が他方の規制凸部 9 を乗り越える (このときクリック感を付与することができる。) ことによって、他方の規制凸部 9 で規制された角度範囲を超えてハンドル 1 0 6 を回動さ

50

ることができる。これにより、携帯型飲料容器 100 では、図 12 に示すように、ハンドル 106 を回動方向の他方側（図 12 中の右回り）に回動させながら、このハンドル 106 を容器本体 101 に接触する位置まで回動させることが可能である。

【0051】

本実施形態の携帯型飲料容器 100 では、容器本体 101 に収容された飲料を飲む際に、容器本体 101 を両手で掴んだ状態で、キャップユニット 102 の飲み口に口を当てながら、容器本体 101 を傾ける。このとき、図 11 及び図 12 に示す位置でハンドル 106 の回動が規制されるため、ハンドル 106 が邪魔になることなく、容器本体 101 を両手で掴んだ状態のまま、容器本体 101 を安心して傾けることができる。また、ハンドル 106 を直接持たなくても、重力によってハンドル 106 が容器本体 101 から垂れ下がった状態となることがない。

10

【0052】

本実施形態の着脱式把手のヒンジ構造は、図 13 (a) ~ (d) に示すように、一对のアーム部 106 a の外面に着脱自在に取り付けられるカバー部材 10 を有している。

【0053】

カバー部材 10 は、基端側が略長方形を為す部分と、先端側が略半円形を為す部分とを有して、全体として偏平平板状に形成されている。なお、カバー部材 10 には、ハンドル 106 と同じ材質のものが用いられている。

【0054】

カバー部材 10 の裏面には、平面視で円形状の軸ピン 11 が突出して設けられている。軸ピン 11 は、カバー部材 10 の略半円形を為す部分の中心に位置している。

20

【0055】

また、カバー部材 10 の裏面には、互いに平行となる一对のガイドレール 12 が突出して設けられている。一对のガイドレール 12 は、カバー部材 10 の略長方形を為す部分に位置している。また、一对のガイドレール 12 は、カバー部材 10 の長手方向（長さ方向）に沿って互いに並行に並んで設けられている。さらに、一对のガイドレール 12 の先端には、互いに外側に向かって突出したフック部 12 a が設けられている。

【0056】

また、カバー部材 10 の裏面には、第 1 の爪部 13 と、先端に第 2 の爪部 14 を有するストッパー 15 とがそれぞれ突出して設けられている。第 1 の爪部 13 は、カバー部材 10 の略半円形を為す部分の先端側に位置している。また、第 1 の爪部 13 の先端は、カバー部材 10 の先端よりも外側に突出している。

30

【0057】

ストッパー 15 は、カバー部材 10 の略長方形を為す部分と略半円形を為す部分との間から突出され、平面視で一对のガイドレール 12 の間に位置するように、カバー部材 10 の長さ方向に一定の幅で延長して設けられている。また、ストッパー 15 は、軸ピン 11 及び一对のガイドレール 12 よりも突出した位置にある。ストッパー 15 の先端には、第 2 の爪部 14 が突出して設けられている。

【0058】

カバー部材 10 の表面には、このカバー部材 10 をスライド操作する際の滑り止めとなる滑り止め部 16 が設けられている。滑り止め部 16 は、カバー部材 10 の短手方向（幅方向）に延長された複数の溝部 16 a がカバー部材 10 の長さ方向に並んで設けられている。

40

【0059】

なお、滑り止め部 16 については、このような複数の溝部 16 a（凹部）を設けた構成に限らず、複数の溝部 16 a の代わりに、複数の突条部（凸部）を設けた構成や、エラストマーなどの滑り止め部材を設けた構成とすることも可能である。

【0060】

アーム部 106 a の外面には、図 3 (a) ~ (c) に示すように、カバー部材 10 の形状に合わせて、カバー部材 10 の厚み分だけ切りかかれたスライド凹部 17 が設けられて

50

いる。また、スライド凹部 17 は、平面視でカバー部材 10 よりも長い略長方形を為す部分を有している。これにより、スライド凹部 17 の内側に嵌め込まれたカバー部材 10 をスライド凹部 17 の長手方向にスライドさせることが可能となっている。

【0061】

スライド凹部 17 の底面には、一对のガイドレール 12 がスライドする範囲で、アーム部 106a を厚み方向に貫通した長孔 18 が設けられている。長孔 18 の一对のガイドレール 12 と対向する側面には、フック部 12a が係合されるリブ 19 が長孔 18 の長手方向に亘って設けられている。

【0062】

カバー部材 10 は、スライド凹部 17 の内側に嵌め込まれた状態で、一对のガイドレール 12 のフック部 12a をリブ 19 に係合させることによって、アーム部 106a の外面にスライド自在に取り付けることが可能となっている。逆に、カバー部材 10 は、上述したフック部 12a とリブ 19 との係合を解除することによって、アーム部 106a の外面から取り外すことが可能である。

【0063】

スライド凹部 17 の先端側には、第 1 の爪部 13 が係止される第 1 の被係止部 20 が設けられている。第 1 の被係止部 20 は、スライド凹部 17 の先端側を残して、アーム部 106a を厚み方向に切り欠く溝部によって形成されている。

【0064】

長孔 18 の内側には、ストッパー 15 の第 2 の爪部 14 が係止される第 2 の被係止部 21 が設けられている。第 2 の被係止部 21 は、長孔 18 の基端側の側面から長孔 18 の長手方向に延長して設けられている。第 2 の被係止部 21 のストッパー 15 と対向する面には、第 2 の爪部 14 が係止される第 1 の係止凹部 21a 及び第 2 の係止凹部 21b が設けられている。

【0065】

カバー部材 10 は、図 14 に示すように、スライド凹部 17 の内側に嵌め込まれた状態で、第 1 の係止凹部 21a に第 2 の爪部 14 が係止されることによって、スライド方向の一端側（アーム部 106a の基端側）に位置して固定される。また、図 14 に示す位置では、スライド凹部 17 の内側に嵌め込まれたカバー部材 10 をアーム部 106a から取り外すことが可能となっている。さらに、図 14 に示す位置では、カバー部材 10 をアーム部 106a に取り付けたまま、ハンドル 106 を容器本体 101 から取り外すことも可能である。

【0066】

一方、カバー部材 10 は、図 15 に示すように、スライド凹部 17 の内側に嵌め込まれた状態で、第 2 の係止凹部 21b に第 2 の爪部 14 が係止されることによって、スライド方向の他端側（アーム部 106a の先端側）に位置して固定される。また、図 15 に示す位置では、第 1 の被係止部 20 に第 1 の爪部 13 が係止されることによって、スライド凹部 17 の内側に嵌め込まれたカバー部材 10 を取り外すことが不可能となっている。さらに、図 15 に示す位置では、ハンドル 106 を容器本体 101 から取り外すことも不可能となっている。

【0067】

カバー部材 10 は、図 14 及び図 15 に示すように、第 1 の係止凹部 21a と第 2 の係止凹部 21b との間を乗り越えることによって、スライド凹部 17 の一端側と他端側との間でスライドさせることが可能である。

【0068】

本実施形態の着脱式把手のヒンジ構造では、軸穴 3 に軸ピン 11 が係合された状態で、カバー部材 10 がスライド凹部 17 の内側に嵌め込まれている。この場合、ハンドル 106 が着脱位置にあるとき、図 16 (a) に示すように、スライド凹部 17 の内側に嵌め込まれたカバー部材 10 は、スライド方向の一端側（アーム部 106a の基端側）に位置している。

10

20

30

40

50

【 0 0 6 9 】

この状態から、図 1 6 (b) に示すように、ハンドル 1 0 6 を上方に向けて回動させることによって、上述した抜け止め部 2 が凹部 6 の内側へと進入するため、スライド凹部 1 7 の内側に嵌め込まれたカバー部材 1 0 は、スライド方向の他端側 (アーム部 1 0 6 a の先端側) に向かってスライドする。

【 0 0 7 0 】

更に、この状態から、図 1 6 (c) に示すように、ハンドル 1 0 6 を抜け止め位置まで回動させることによって、スライド凹部 1 7 の内側に嵌め込まれたカバー部材 1 0 は、スライド方向の他端側 (アーム部 1 0 6 a の先端側) までスライドする。

【 0 0 7 1 】

一方、本実施形態の着脱式把手のヒンジ構造では、上述した図 1 6 (a) ~ (c) 示すハンドル 1 0 6 の回動動作とは逆の動作によって、スライド凹部 1 7 の内側に嵌め込まれたカバー部材 1 0 をスライド方向の他端側 (アーム部 1 0 6 a の先端側) から一端側 (アーム部 1 0 6 a の基端側) へとスライドさせることが可能である。

【 0 0 7 2 】

以上のように、本実施形態の着脱式把手のヒンジ構造では、容器本体 1 0 1 に対するハンドル 1 0 6 の着脱を容易に行うことが可能である。また、カバー部材 1 0 を含めてヒンジ部 1 0 5 を分解できるため、ヒンジ部 1 0 5 が洗浄し易い構造となっている。したがって、このような着脱式把手のヒンジ構造を採用した携帯型飲料容器 1 0 0 では、更なる利便性の向上を図ることが可能である。

【 0 0 7 3 】

なお、本発明は、上記実施形態のものに必ずしも限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲において種々の変更を加えることが可能である。

例えば、上記携帯型飲料容器 1 0 0 については、上述した外観形状を有したものに限定されるものではなく、そのサイズや機能、デザイン等に合わせて、適宜変更を加えることが可能である。また、容器本体 1 0 1 は、上述した真空断熱構造を有するものに限らず、本実施形態の着脱式把手のヒンジ構造が適用可能なものであればよい。

【 0 0 7 4 】

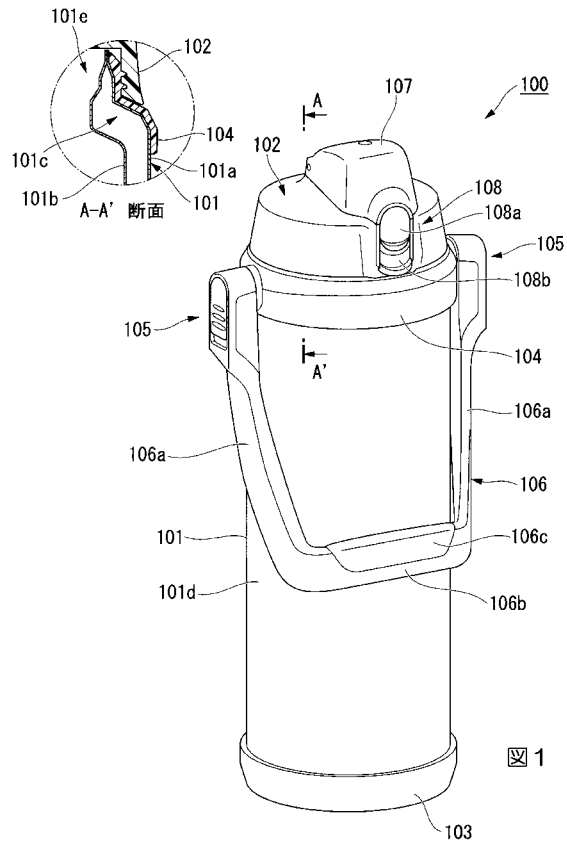
また、上記携帯型飲料容器 1 0 0 は、把手として、上記ハンドル 1 0 6 の代わりに、可撓性のストラップがヒンジ部 1 0 5 を介して容器本体 1 0 1 の側面に着脱自在に取り付けられた構成とすることも可能である。この場合、ハンドル 1 0 6 とストラップとを付け替えて使用することも可能である。

【 符号の説明 】

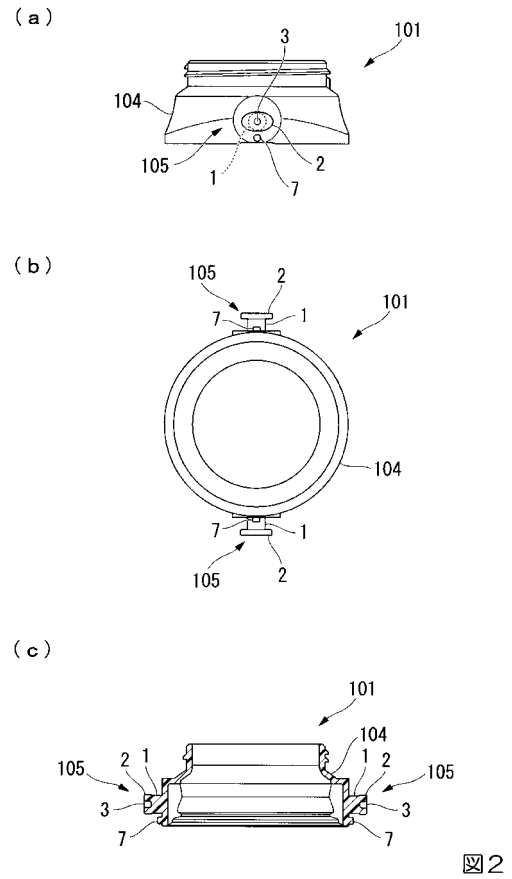
【 0 0 7 5 】

1 ... 支軸 2 ... 抜け止め部 3 ... 軸穴 4 ... ガイド孔 5 ... 回動規制部 (当接部) 6 ... 回動案内部 (凹部) 7 ... ガイド凸部 8 ... ガイド凹部 9 ... 規制凸部 1 0 ... カバー部材 1 1 ... 軸ピン 1 2 ... ガイドレール 1 3 ... 第 1 の爪部 1 4 ... 第 2 の爪部 1 5 ... ストッパー 1 6 ... 滑り止め部 1 7 ... スライド凹部 1 8 ... 長孔 1 9 ... リブ 2 0 ... 第 1 の被係止部 2 1 ... 第 2 の被係止部 1 0 0 ... 携帯型飲料容器 1 0 1 ... 容器本体 1 0 2 ... キャップユニット 1 0 3 ... 底部材 1 0 4 ... 肩部材 1 0 5 ... ヒンジ部 1 0 6 ... ハンドル (把手) 1 0 7 ... 蓋 1 0 8 ... 蓋ロック機構

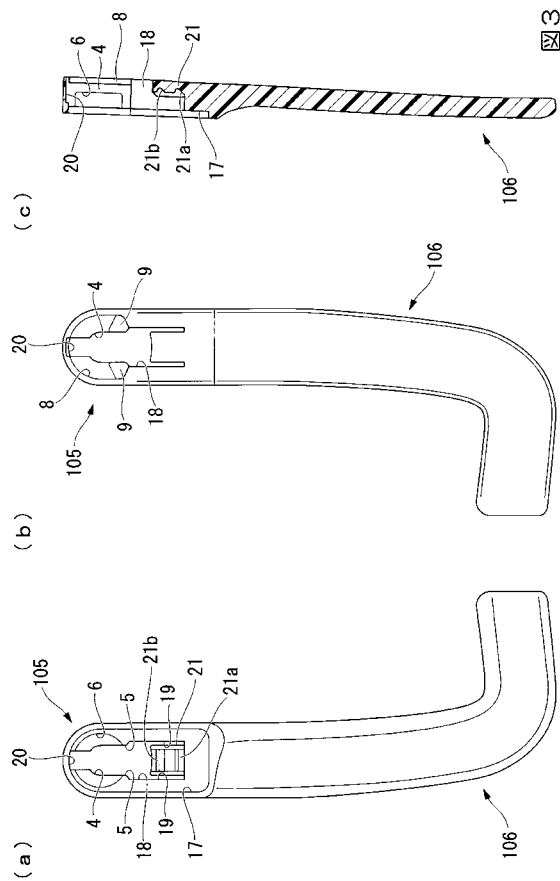
【図 1】



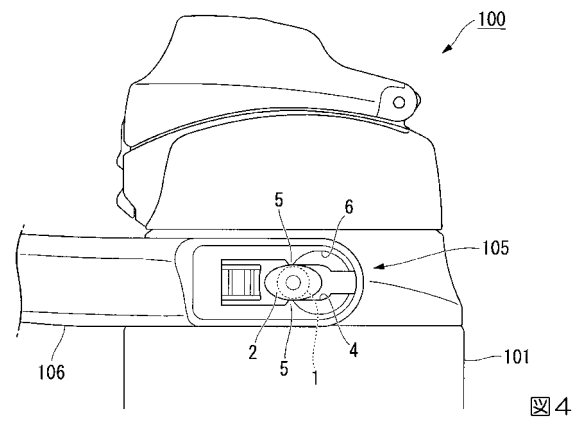
【図 2】



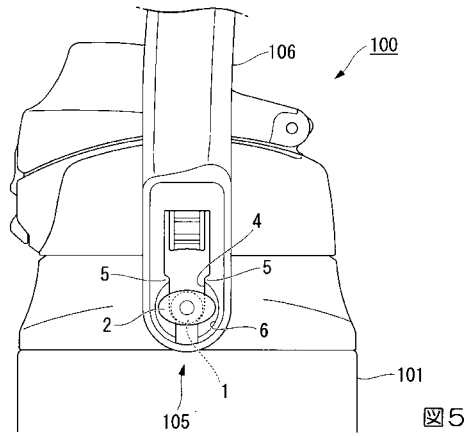
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

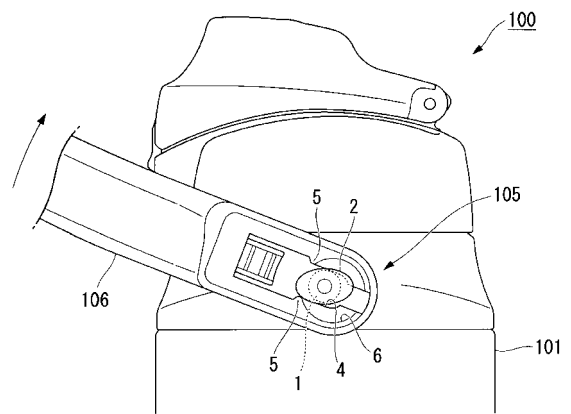


図 6

【図 7】

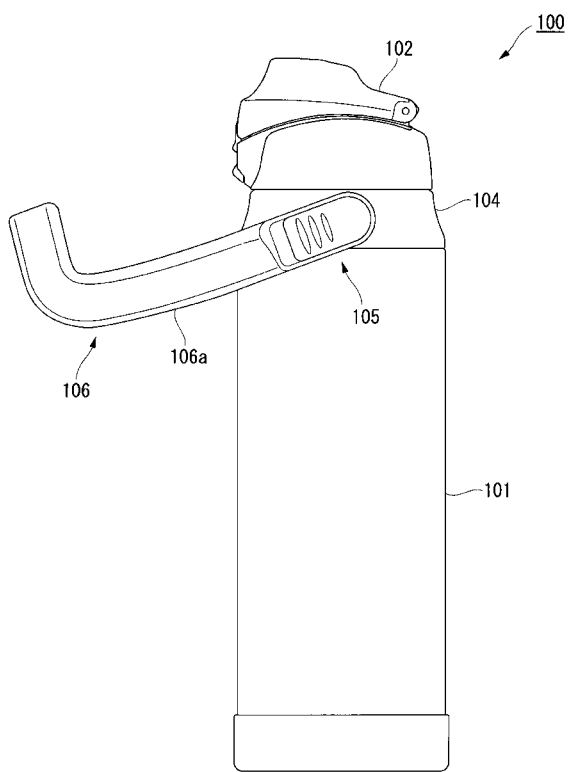


図 7

【図 8】

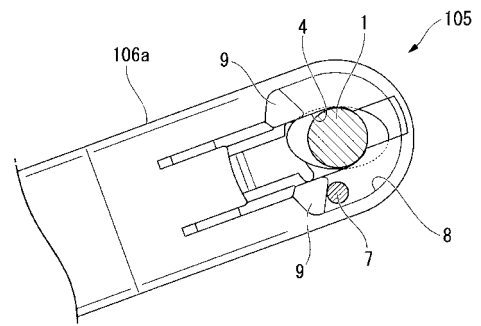


図 8

【図 9】

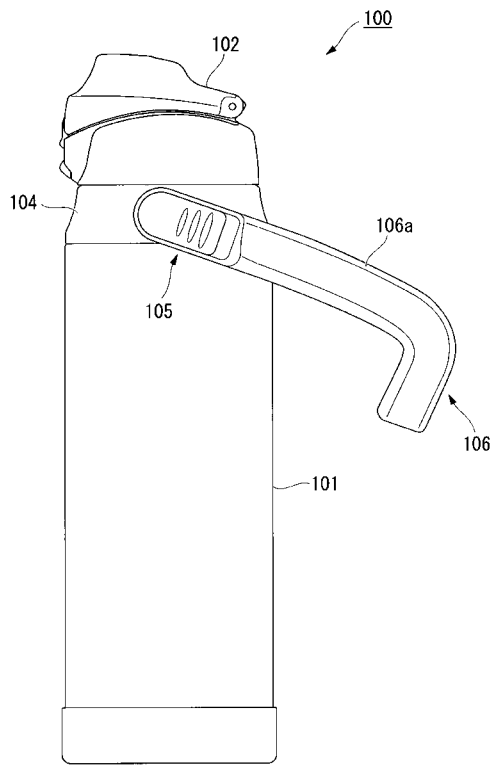


図 9

【図 10】

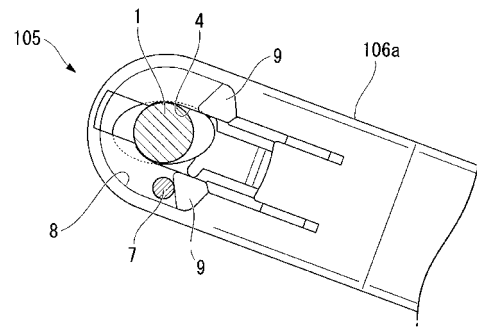


図 10

【図 11】

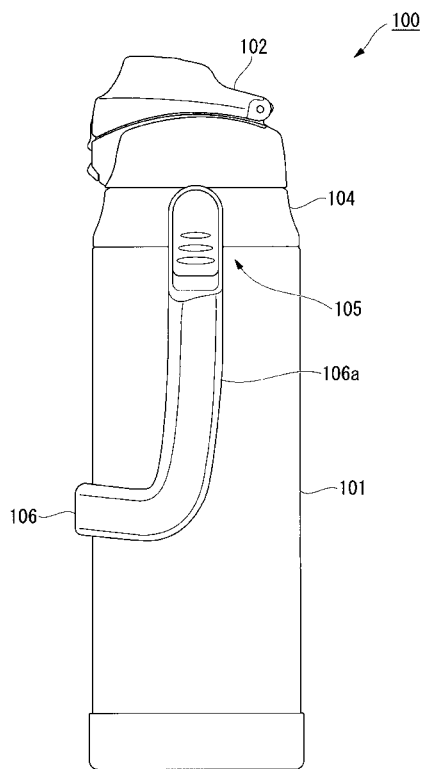


図 11

【図 12】

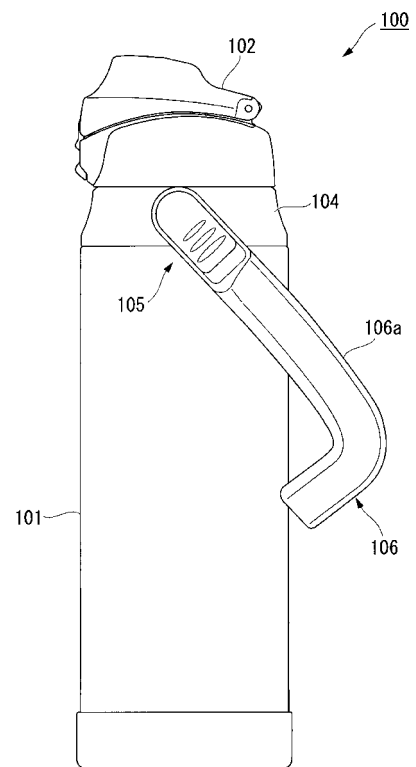


図 12

【図 13】

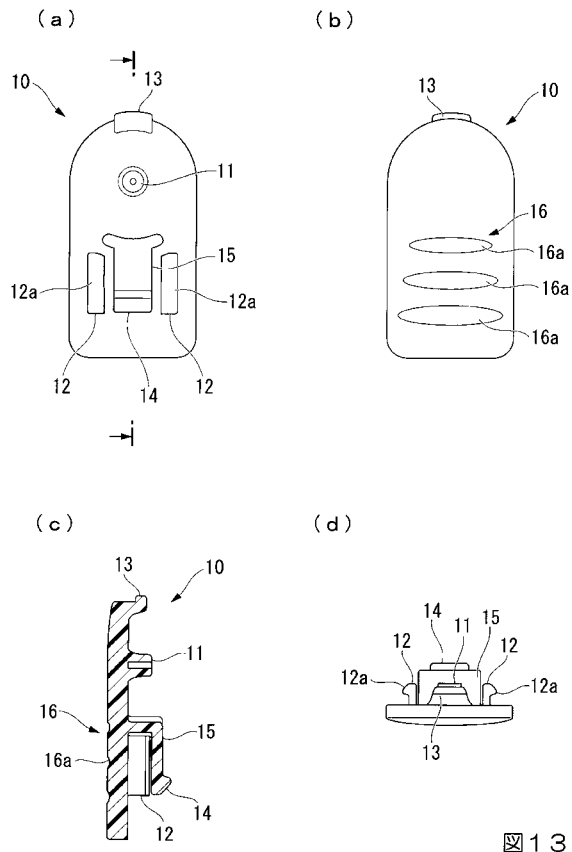


図 13

【図 14】

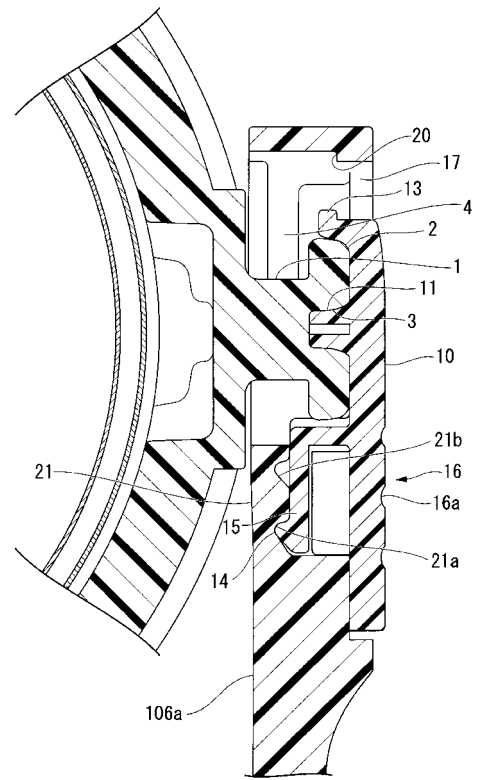


図 14

【図 15】

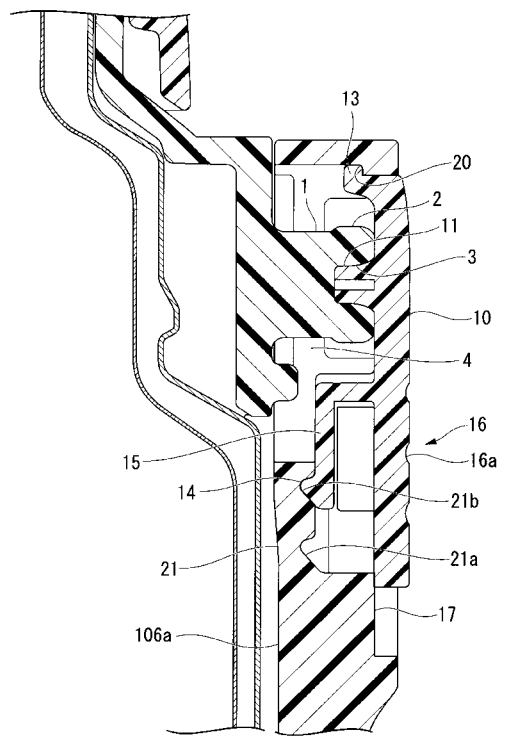


図 15

【図 16】

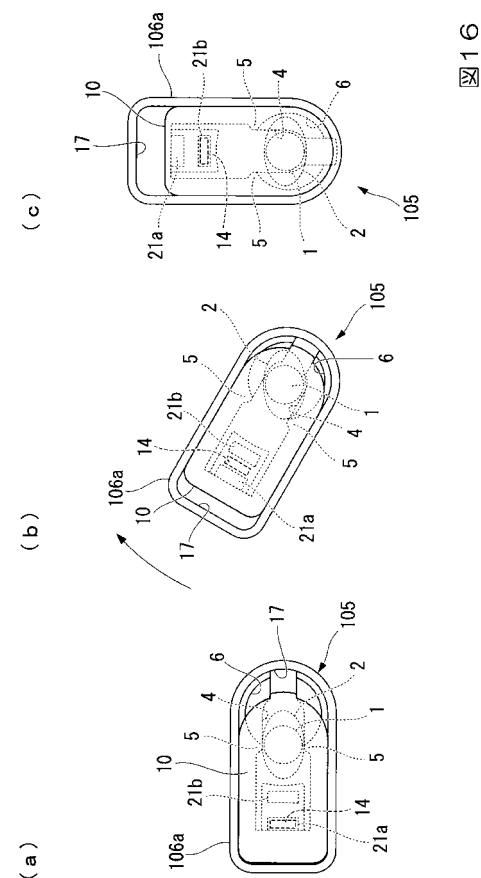


図 16

【手続補正書】

【提出日】平成28年10月3日(2016.10.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

容器本体の側面にヒンジ部を介して回動自在に支持される把手を前記容器本体に対して着脱自在に取り付ける着脱式把手のヒンジ構造であって、

前記ヒンジ部は、前記容器本体の側面から突出された支軸と、

前記支軸の先端から拡径方向に突出された抜け止め部と、

前記把手に設けられて、前記支軸及び前記抜け止め部をスライド自在に案内するガイド孔と、

前記ガイド孔のスライド方向の一方側に位置して前記抜け止め部の回動を規制する回動規制部と、

前記ガイド孔のスライド方向の他方側に位置して前記抜け止め部を回動自在に案内する回動案内部とを有し、

前記ガイド孔の内側に進入した前記抜け止め部及び前記支軸を前記ガイド孔の他方側に位置させることによって、前記把手を回動させたときに前記抜け止め部が前記ガイド孔から抜け止めされた状態となると共に、

前記抜け止め部は、平面視で楕円形状を有し、

前記回動案内部は、前記抜け止め部の回動範囲に合わせて平面視で円形状に切り欠かれた凹部であり、

前記回動規制部は、前記凹部との境界において前記抜け止め部と当接される一对の当接部であり、

前記ガイド孔の一方側から前記抜け止め部及び前記支軸を前記ガイド孔の内側に進入させた状態から前記把手を回動させたときに、前記抜け止め部が前記一对の当接部と当接しながら前記凹部の内側へと進入すると共に、前記支軸が前記ガイド孔の一方側から他方側へとスライドすることによって、前記抜け止め部が前記ガイド孔から抜け止めされた状態となることを特徴とする着脱式把手のヒンジ構造。

【請求項 2】

前記ヒンジ部は、前記容器本体の側面から突出されたガイド凸部と、

前記把手の前記ガイド凸部と対向する面に前記ガイド凸部を前記把手の回動方向に所定の角度範囲で案内するガイド凹部と、

前記ガイド凹部の前記回動方向の一端側と他端側との少なくとも一方側において、前記ガイド凸部と当接される規制凸部とを有し、

前記ガイド凸部が前記規制凸部に当接されることによって、前記把手の回動が規制されると共に、前記ガイド凸部が前記規制凸部を乗り越えることによって、前記角度範囲を超えて前記把手が回動されることを特徴とする請求項 1 に記載の着脱式把手のヒンジ構造。

【請求項 3】

前記把手は、前記ガイド孔の前記抜け止め部及び前記支軸が進入する側とは反対側に着脱自在に取り付けられるカバー部材を有し、

前記カバー部材は、前記支軸の先端に設けられた軸穴に係合される軸ピンを有して、前記ガイド孔に沿った方向にスライド自在に取り付けられていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の着脱式把手のヒンジ構造。

【請求項 4】

容器本体と、

前記容器本体の側面にヒンジ部を介して回動自在に支持される把手とを備え、

請求項 1 ~ 3 の何れか一項に記載の着脱式把手のヒンジ構造を有して、前記容器本体に対して前記把手が着脱自在に取り付けられていることを特徴とする携帯型飲料容器。

【請求項 5】

前記把手は、前記容器本体の相対する側面に前記ヒンジ部を介して上下方向に回動自在に支持された一对のアーム部と、前記一对のアーム部の間を連結するアーチ部とを有するハンドルであることを特徴とする請求項 4 に記載の携帯型飲料容器。

【請求項 6】

前記把手は、前記容器本体の相対する側面において前記ヒンジ部を介して上下方向に回動自在に支持された可撓性のストラップであることを特徴とする請求項 4 に記載の携帯型飲料容器。

【請求項 7】

前記容器本体の上部開口部を閉塞するキャップユニットを備え、

前記キャップユニットには、飲み口が開閉自在に設けられていることを特徴とする請求項 4 ~ 6 の何れか一項に記載の携帯型飲料容器。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

上記目的を達成するために、本発明は以下の手段を提供する。

〔1〕 容器本体の側面にヒンジ部を介して回動自在に支持される把手を前記容器本体に対して着脱自在に取り付ける着脱式把手のヒンジ構造であって、

前記ヒンジ部は、前記容器本体の側面から突出された支軸と、

前記支軸の先端から拡径方向に突出された抜け止め部と、

前記把手に設けられて、前記支軸及び前記抜け止め部をスライド自在に案内するガイド孔と、

前記ガイド孔のスライド方向の一方側に位置して前記抜け止め部の回動を規制する回動規制部と、

前記ガイド孔のスライド方向の他方側に位置して前記抜け止め部を回動自在に案内する回動案内部とを有し、

前記ガイド孔の内側に進入した前記抜け止め部及び前記支軸を前記ガイド孔の他方側に位置させることによって、前記把手を回動させたときに前記抜け止め部が前記ガイド孔から抜け止めされた状態となると共に、

前記抜け止め部は、平面視で楕円形状を有し、

前記回動案内部は、前記抜け止め部の回動範囲に合わせて平面視で円形状に切り欠かれた凹部であり、

前記回動規制部は、前記凹部との境界において前記抜け止め部と当接される一对の当接部であり、

前記ガイド孔の一方側から前記抜け止め部及び前記支軸を前記ガイド孔の内側に進入させた状態から前記把手を回動させたときに、前記抜け止め部が前記一对の当接部と当接しながら前記凹部の内側へと進入すると共に、前記支軸が前記ガイド孔の一方側から他方側へとスライドすることによって、前記抜け止め部が前記ガイド孔から抜け止めされた状態となることを特徴とする着脱式把手のヒンジ構造。

〔2〕 前記ヒンジ部は、前記容器本体の側面から突出されたガイド凸部と、

前記把手の前記ガイド凸部と対向する面に前記ガイド凸部を前記把手の回動方向に所定の角度範囲で案内するガイド凹部と、

前記ガイド凹部の前記回動方向の一端側と他端側との少なくとも一方側において、前記ガイド凸部と当接される規制凸部とを有し、

前記ガイド凸部が前記規制凸部に当接されることによって、前記把手の回動が規制され

ると共に、前記ガイド凸部が前記規制凸部を乗り越えることによって、前記角度範囲を超えて前記把手が回動されることを特徴とする前記〔1〕に記載の着脱式把手のヒンジ構造。

〔3〕 前記把手は、前記ガイド孔の前記抜け止め部及び前記支軸が進入する側とは反対側に着脱自在に取り付けられるカバー部材を有し、

前記カバー部材は、前記支軸の先端に設けられた軸穴に係合される軸ピンを有して、前記ガイド孔に沿った方向にスライド自在に取り付けられていることを特徴とする前記〔1〕又は〔2〕に記載の着脱式把手のヒンジ構造。

〔4〕 容器本体と、

前記容器本体の側面にヒンジ部を介して回動自在に支持される把手とを備え、

前記〔1〕～〔3〕の何れか一項に記載の着脱式把手のヒンジ構造を有して、前記容器本体に対して前記把手が着脱自在に取り付けられていることを特徴とする携帯型飲料容器。

〔5〕 前記把手は、前記容器本体の相対する側面に前記ヒンジ部を介して上下方向に回動自在に支持された一对のアーム部と、前記一对のアーム部の間を連結するアーチ部とを有するハンドルであることを特徴とする前記〔4〕に記載の携帯型飲料容器。

〔6〕 前記把手は、前記容器本体の相対する側面において前記ヒンジ部を介して上下方向に回動自在に支持された可撓性のストラップであることを特徴とする前記〔4〕に記載の携帯型飲料容器。

〔7〕 前記容器本体の上部開口部を閉塞するキャップユニットを備え、

前記キャップユニットには、飲み口が開閉自在に設けられていることを特徴とする前記〔4〕～〔6〕の何れか一項に記載の携帯型飲料容器。